

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 15日
- 事業名 : 被災者の孤独・孤立防止と地域コミュニティ創生事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人ふくしま百年基金
- 実行団体 : 一般社団法人 Teco

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
(1)お茶会やイベントを開催し、住民に交流機会を提供	・実施回数 お茶会/マルシェ/移動販売 ・参加、利用者数 お茶会/マルシェ/移動販売	・お茶会 各団地月 1 回、10 団地×毎月 = 120 回(可能な限り全 16 団地になるよう努める) ・マルシェまたは移動販売 年延べ 12 回	2024/3/31	お茶会開催 22 回 参加者数延べ 419 人	2
(2)見守りとセットの配食を希望する人に対し、配食サービスを提供	延べ配食数	1920 回×80 人×月 2 回×2 年(特に支援が必要と感じる 8 団地、各 10 名を重点的に配食)	2024/3/31	個別訪問や交流会の参加者にアンケートをとりニーズ調査を行った	3

<p>(3)困難を抱えた人を福祉団体や専門機関等へ繋ぐ</p>	<p>連携件数 情報共有会議開催数</p>	<p>・対象 16 団地、各団地年 3 回×2 年 = 96 回 ・合同会議 延べ 2 回 ・支援実績 32 人 (月 1 人×16 団地×2 年)</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>団地で開催した様々な交流会を行うにあたり、多様なべ 16 団体と連携をはかることができた。 NPO 法人ザ・ピープル/災害支援ネットワーク IWAKI/浜〇かふえ/オーガニックコットンプロジェクト/天空の里山/ブラクーチェ/Cielblue Aloma/カット&amp;パーマしょうこ/いわき芸術文化交流館アリオス/内郷・好間・三和地域包括支援センター/NPO 法人みんぶく/大熊町社会福祉協議会/わたみの配食</p>	<p>2</p>
<p>(4)キーパーソンになりうる方のエンパワーメントを引き出し、自主的に自治会活動やサークル活動を運営できるように促す</p>	<p>・キーパーソン候補の洗い出し人数 ・若者が参加したイベントの延べ人数</p>	<p>・キーパーソン候補者 3 人×10 団地 = 30 人 ・若者 延べ 100 人</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>・キーパーソン候補者 22 人 ・若者参加者 7 人</p>	<p>2</p>

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・福島県における感染症対策に従い、手洗い/消毒/検温/換気/密を避ける等を徹底して交流会等を開催した。

## ③ 広報（※任意）

### 1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

- ・facebook、Instagram等で交流会の様子などを随時、定期的に発信

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100067122285068>

[https://www.instagram.com/sya\\_teco/?fbclid=IwAR2d4ZkERJvldIeisWjN5EYAMaqlbc\\_Sp1DmLRbB87jEqdxkHKH7hWJSboc](https://www.instagram.com/sya_teco/?fbclid=IwAR2d4ZkERJvldIeisWjN5EYAMaqlbc_Sp1DmLRbB87jEqdxkHKH7hWJSboc)

### 2. 広報制作物等

- ・交流会ごとにチラシを制作し掲示板に掲示、またはポスティングを行い周知

<https://drive.google.com/drive/folders/14iT8l2CsB3bRrszTLKSKVJu4SGKyVtoc?usp=sharing>

### 2. 報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業全般	小沼満貴	代表理事
内部	経理	鈴木靖子	専務理事兼事務局長

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
どの団地でも団地主体のお茶会が、定期的で開催されている	・定期的な交流の場が持っている団地数	・10 団地	2024/3/31	6 団地 （宮沢団地/関船団地/下矢田団地/中原団地/勿来酒井団地※ これらの団地は月 1 回以上継続して交流会を開催。） コロナ禍で約3年間ほとんどの団地が活動を停止・縮小していた為、交流機会の減少に伴い孤立や心身の健康を損なう人が多くいた。そこで、人と人が顔を合わすことの重要性や、顔の見える関係づくりが何よりの防災であることを自治会長や住民と再確認し、感染症対策を行った上で交流会を再開。また、交流会の運営により役員等に過度の負担がかかることを防ぐ為、まずはより多くの住民に足を運んで頂く機会とする為、暫くの間は当法人主催とし各団地のニーズに適した内容の交流会を定期的で開催する。

<p>団地住民が何等かのコミュニティや住民同士のつながりに帰属意識を持ち、それを持って生活に安心感が向上している</p>	<p>・アンケートを通して、自分らしくいられるお茶会等のイベント、或いは気軽に相談ができる相手をもっていること。 その人数や参加頻度、参加しているイベント等</p>	<p>・1 個</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>コロナ禍に伴い従来のコミュニティや住民同士の繋がる機会を持つことができていない状態であったが、団地集会所にて定期的なお茶会を開催することでそこに参加することが唯一の交流機会になっている住民が多くいる。また、子ども向けの交流会や季節感のある内容など工夫を凝らすことで、集会所に初めて訪れた住民も多くいた。初参加のお母さんは、団地の登校班の悩みや団地内の親子の問題など誰にも相談出来なかった悩みを共有することが出来、安堵したようであった。アンケートや話しの中でも、「交流会が月に1回の楽しみだ」「初めて団地でママ友ができて良かった」と顔の見える繋がりが出来始めて、暮らしの中に安心感を得ることができた。</p>
<p>・見守りが必要な人が誰か把握できている ・ケアが必要に個別支援が行き届いている</p>	<p>・アンケート調査を行い、必要な人を把握 ・カルテを作成し、個別の事情や課題、支援の方向性などが設定できている人数</p>	<p>・全団地の住民状況を把握 ・全体の80%</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>アンケート実施件数 71 件 個別訪問を行う中で、集会所には訪れたことのない一人暮らしの高齢者のお話を伺う機会を多く設けることができた。また、集会所に行かない理由も様々で、身体が不自由であったり集会所の立地条件が悪かったりも理由の1つであった。そのことより、集会所に行くことができない高齢者のお宅に定期的に訪問し、交流を重ねている。「話していると気持ち明るくなる」「この時間が楽しみ」と、震災時の話や故郷のも時折涙を見せながら話すことで、心身の支援に繋がっている。今後はさらに交流を重ね、社会福祉協議会や専門機関等とも連携をはかり多様な角度から見守ることができたらと考える。</p>

<p>自治会役員またはキーパーソンが何かあった時に直接専門機関に連携が取れる状態</p>	<p>自治会と社協等との連携した情報共有会議が定期的に行われる団地の数</p>	<p>10 団地</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>0 団地 情報共有会議においては、相双地区の社協等と会議の開催に向けて話し合ったものの、現時点でいくつもの類似した会議があるため、今後統一していけたらとのこと。よって、今は定期的に社協との打合せや情報共有を重ねていく。</p>
<p>キーパーソン自身が自分の役割を認識した上で、自主的にお茶会等を運営している状態</p>	<p>キーパーソンがいる団地の数</p>	<p>10 団地</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>5 団地 (宮沢団地、下矢田団地、下神白団地、勿来酒井団地、関船団地) 団地には高齢者が多く住んでいることから、コロナ禍において交流会を再開することは当初とても困難であった。しかし、その3年間の間に転居者も増えコミュニティが希薄になっていることは自治会長や自治会活動に多く参加している人ほど強く感じていた。しかし、交流会に参加するには、コロナ禍での開催強く不安に思う役員等もいることから、「自治会主催」ではなく「Teco 主催」とすることで、希望者のみ参加しやすい雰囲気をつくることができた。感染症対策における県の基準などを踏まえた上で、定期的を開催することで徐々に参加者が増えていき、交流会の必要性を再確認したキーパーソンは今までに意欲的に活動を行っている。</p>
<p>団地外の資源と団地コミュニティが適度につながり、地域資源を活かして住民同士が支え合える状態</p>	<p>団地と外部支援とが連携したイベント等を実施している団地数</p>	<p>対象 10 団地 計 30 イベント</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>・4 団地 市内の支援団体やまちづくり団体等と連携をはかりながら、計4つの交流会等を開催することができた。 復興イベント/筆文字お茶会(×3)</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>事業開始当初は、コロナ禍であることにより、団地自治会と繋がる機会が乏しかったり、交流会を行うことに不安を抱えていたり、開催するまでの課題が多くあった。しかし、孤立や孤独死防止の為に、今できることはコミュニティの再構築であると考え、積極的に自治会長等にアプローチして交流会を再開していった。継続して交流会を行っている、当法人の活動が認知されていき、参加した方の口コミで少しずつではあるが参加者も増加してきている。</p> <p>今後は、まだ関わっていない団地に関しては早急にアプローチしてまずは団地情報を把握すると共に、そこでの交流会の開催を目指す。現在定期的に交流会が開かれている団地に関しては、当法人主催から、団地自治会が主体で交流会を運営できる仕組みづくりや(補助金サポートやチラシ作成サポート等)、キーパーソンが自主的に交流会を開催できる体制づくり(役割分担等)を最終的な目的として関わっていく。</p> <p>また、どの団地においても、多様な支援団体や地域住民との関わりや繋がりを持てる機会を増やして、支え合える関係性の構築を目指す。</p>

## B) 事業の改善状況の

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	活動は事業計画で想定して いる支援対象者に届いている か	スケジュールに沿って 実施できている	市内に 16 団地ある復興公営住宅の中で、半数の 8 団地と関わることが でき、その内 6 団地においては定期的(約月 1 回)当法人が主催で交流 会ができています。 また、3 つの団地においては団地が隣接した地域住民も交流会に参加し ており、住民を見守りあうコミュニティが築かれている。
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	事業で得た知見は多様な関 係者に共有され活かされてい るか	スケジュールに沿って 実施できている	Facebook、Instagram、ホームページで日々の活動や、復興公営住宅の現状 を多用な世代に発信することができています。 また、社会福祉協議会や NPO 法人みんぷく等とも情報を共有し、それぞ れの得意分野等をすみ分けながら多様な角度から支援できるような体制を整 えている。
組織基盤強化・ 環境整備	事業終了後も持続可能性を 高めるような戦略が計画に含 まれているか	スケジュールに沿って 実施できている	事業終了後も団地内の交流活動が継続して行える様に、キーパーソンとな る方に対して、目的意識の共有やエンパワメントを引き出す関わりを当初 から行っている。 学生等の若者の関わりに関しては現在ボランティアを要請中。今後更に積 極的にアプローチし、学校の年間予定に計画してもらえるような働きかけを していく。 また、当法人としても安定した運営や息の長い復興支援を行えるように、行 政機関や各団体との打合せなどを重ねるなかで、福島県いわき地方振興局 の移住促進事業を担うことができた。 ・ふくしまチャレンジライフ事業/いわき移住サポーターを受託



## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・コロナ禍で約3年間活動を行えていなかった団地が全体の90%であったが、当法人が関わり定期的にお茶会を開催できるようになった団地が60%となった。
- ・この3年間活動を自粛していた団地自治会から、交流機会の創出の為補助金を活用したいと依頼を受け「浪江町復興コミュニティ事業補助金」の申請書の作成サポートを行った。
- ・定期的に交流会を開催したり訪問を続けたりする中で、自治会長や住民と信頼関係を築くことができ、住民の要望や困りごとなど話してくれるようになった。
- ・高齢者数名しか参加者がいなかった定期お茶の際に、夏休みであったこともあり子ども向けの交流会を行ったところ親子連れの新規参加者が3組もいた。また、その後のお茶会にも顔をだしてくれるようになった。
- ・団地自治会長と定期的な情報共有に加え、地元区長とも連携をはかることができた。定期的に地元区長宅にもお伺いし、復興公営住宅の現状や課題、当法人の様々な取り組みに共感して頂いたことで、地域交流の重要性を認識して下さったことより、毎回地元区の回覧板で交流会のチラシを回覧していただいている。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・1つの団地においては毎回、地元区長が参加して下さり地域住民も団地住民と同数参加しており、活発な地域交流の場となっている。
- ・下の名前で呼び合ったり、団地に合った交流会の内容にしたりと、当法人の寄り添った関わりで信頼関係が築けていることより、困った時には連絡や相談を頂ける関係性が想像以上に築けてきている。  
(サポート例：補助金申請書の作成サポート、若い自治会役員と高齢者の住民の相違に対して間に入って自治会運営サポート、住民周遊バスを通して欲しいと依頼があり交通機関に相談、ポストを設置して欲しいと相談があり郵便局に確認、携帯電話の使い方が分からないと相談があり対応、団地周辺の飲食店や施設を教えて欲しいと相談があり対応等)



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り配食に関しては、避難元の町で配食サービスを推進していたり、現時点では親族等のサポートなどがあったりすることから需要は極めて少ないと判断した。今後、高齢化に伴い免許を返納する方が著しく増加することも含め、移動販売などのアプローチは継続して行いながらも、個別支援の方法としては、話し相手や御用聞きのような形で行っていく。</li> <li>・連携会議においては、既存の類似した会議が多くあることや、各町の社会福祉協議会が従来の仕組みを急に変更することが困難なこと等から、新たな会議を立ち上げることは困難であった。しかし、今年度よりはじまった社会福祉協議会の地域コーディネイト事業が今後、町ごとの枠組みを超え支援を行うことが可能になる為、当法人の復興公営住宅のネットワークや市内での幅広い活動を活かし地域コーディネイト事業と深く協働していくことができると感じている。</li> </ul>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・未だ深く関わっていない半数の団地において、第1回目の交流会等の開催に向け、自治会長とコンタクトを取りたい。
- ・団地運営が継続して行われる為には、地域の学生や若者の関わりも必須と考えることより、学生ボランティア等が復興公営住宅に関わる機会を創出したい
- ・団地自治会と地元区との関わりを増やすことが、安心した暮らしや孤立や孤独死防止にも繋がることから、多くの団地で互いに情報共有できる機会作りをしたい
- ・個別支援、見守り支援の新たな取り組みとして、話し相手や御用聞きの個別訪問を積極的に行い、そこから各関係機関に繋ぐ仕組みづくりを行いたい(まずはモデルケースとして1団地から)

添付資料活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

▶健康太鼓交流会(下神白団地) 2022年4月

コロナ禍による活動自粛期間を乗り越え再開。年に1度の秋まつりに向けて練習を重ねています。



▶筆文字お茶会(関船団地) 2022年5月

当法人のサポートにより約3年ぶりに集会所での交流会を行った。筆文字講座は大好評で第2弾も開催した。



▶ちぎり絵交流会(勿来酒井団地) 2022年7月

市内で入居が一番遅い団地で入居当初からコロナ禍と戦っていた。しかし積極的な会長の元、地域と情報共有がはかれている。今回は地元区長にも協力頂き回覧板で周知したことで、地域住民の参加もあった。



▶ミニミニ夏祭り交流会(中原団地) 2022年8月

ここ数年は3名程の参加者しかいない状態だったが、夏休み期間であることから対象者を絞り親子向けに交流会を開催。集会所に初めて訪れた方が多く10名以上の参加となった。

